

第5学年 国語科学習指導案

玉諸小学校 田中 聡明

1 単元名

よりよい学校生活のために（光村図書）

2 単元について

（1）学習指導要領における位置付け

本単元は、『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編』の「話すこと・聞くこと」領域（1）「ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること」及び「オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること」を受けて設定したものである。前単元「どちらを選びますか」では、討論会を通して二つの立場を明確にして、説得力のある主張を述べることの学習を行った。本単元では議題に対する自分の意見を明確にした上で、相手の意見をふまえ、考えを広げたりまとめたりする活動が主となる。よって、前単元よりその場での話し合いによる意見の交流が重要となり、瞬発的に考えたことを述べる力が必要となってくる。これからの時代は、意見を求められたときに、相手の意図や質問の意味を瞬時に捉えて自分の立場を明確にしながら意見を述べる力が求められるため、本単元はその力を育成するのに相応しい単元であると考えられる。

（2）児童の実態

男子14名、女子16名、計30名の学級である。

本学級は、明るくとても元気よく、あいさつ運動や林間学校でのクラスの取り組み等、協力して意欲的に取り組むことができ、仲のよい学級である。

4月当初から話し合い活動には数多く取り組んできた。意見の発表の仕方や聞き方については指導してきているが、学級の中で自分の考えを積極的に表現する児童と、考えがあっても表現しない児童との差が大きく、学習の場面でもそれは顕著に表れている。

国語科の学習においては、苦手意識をもっている児童もおり、学習意欲や学習理解に差が見られる。特に考える場面ではすぐあきらめてしまう児童がいたので、Jamboardを活用し、付箋を用いて自らの考えをまとめる活動を取り入れることで、発表の苦手な児童にも自らの考えを発表しやすい環境作りをしてきた。また自分の考えを表現する際は、前時の振り返りを説明する場面を設定したり、同じ意見でも複数の児童に発表させたりするなどの工夫を行ってきた。

本単元では、児童が意欲的に話し合い活動に参加できるよう児童の身近で解決できるものを議題とすることにした。その上で、互いの立場を明確にし、まずは自分がどのような意見を持っているのかを視覚化するため、Jamboardを活用し、付箋に自らの考えを示すことで、話し合い活動に全員が取り組みやすいよう仕向けていく。

(3) 本単元で育てたい資質や能力

本単元では、互いの立場を明確にして話し合い、意見をまとめる学習を行う。考えを広げる話し合いと、考えをまとめる話し合いの段階を意識しながら進めていく。

互いの立場を明確にするためには、まず自分がどのような意見をもっているのかを書き出す等して視覚化する必要がある。そこで考えを広げる話し合いでは Jamboard を活用し、自らの考えを付箋に書き出し整理することで、話し合い活動に取り組みやすい環境作りから取り組んできた。次に考えをまとめる話し合いでは、互いの考えの共通点・相違点を明確にし、考えを決める基準を定めることが重要である。そのため、「がんばればできること・みんなのできる」という基準を設け、その中で自らの考えに対する理由や根拠を挙げさせながら、参加者で同意した基準に基づいて意見をまとめさせていきたい。

(4) 「論理的思考力」をつけるための手立て

①本単元における理論的思考力の捉え方

この単元では「考えを広げる話し合い」と「考えを深める話し合い」について、意識的に段階を分けて扱っていく。

[考えを広げる話し合い]

㊦一人ずつ意見を出し合う

最初に、それぞれがどのような考えをもっているのかを確認し合う。その際、自分の考えを出し合った観点を基に、「現状と問題点」を述べた上で、「解決方法」と「理由」を話すようにする。

①互いの考えについて質問したり、答えたりする。

出し合った意見をすぐにまとめようとせず、質問によって相手の考えを詳しく知ったり、それに答えることで、新たな考えに気づいたりすることが重要である。考えをより具現化し、問題点を明確にするなど、考えや見方を広げるためには、意識的に様々な視点から質問をすることが欠かせない

また、自分の考えと関連を示した上で質問することも重要である。質問をし、質問された相手がそれに答えるという単発的なやりとりでなく、質問や答えに対し、みんなが考えたことを示したり、新たな質問をつないだりしていくことでさらに考えを広めていきたい。

[考えをまとめる話し合い]

㊦互いの共通点や相違点を確かめる。

十分に考えを広げた上で、それぞれの考えの共通点や相違点を確かめながら整理していく。それぞれの考えの良さや問題点を理解し、考えを広げたことで、考えを整理するための観点も広がるのが予想される。単に解決方法の違いで考えを整理するのではなく、考えを広げる話し合いの際に出された意見をキーワードとして、それぞれの考えを整理していく。

また、考えを整理する際は、それぞれの考えを書いた付箋を観点ごとに整理したり、キーワードを書き込んだりするなど、視覚的に理解しやすく工夫することも有効である。

㊧考えをまとめるための条件を考え、その条件にそって話し合う。

グループの考えをまとめるためには、考えを決定する際の基準となる条件を明確にすることが必要である。共通点や相違点を踏まえた上で、問題を解決していくために一番大事なことは何かを話し合うことで、条件を決定できるようにしたい。一人一人が条件づくりにも携わることが、納得感のある決定に繋がる。最後は、条件に合う解決方法はその考えなのかを話し合い、グループの考えをまとめていく。本時は、事前に考えた「がんばればできる」「みんなでできる」の2つの条件をもとにして内容をまとめていく。

②本單元における具体的な手立て

本單元での話し合い活動を主体的でより深い学びにするために、「自分の考えをもつ」、「考えを広げ、まとめる」の2点を重点的に指導していきたい。まず、自分の考えをもたせるための手立てについてである。自分の考えをもつことが、今後の話し合いを主体的に進めていくために重要であると考え。そのため、議題を「最高学年に向けた学年の課題」という児童のより身近なものをテーマに掲げ、考えさせたい。さらに自分の考えを、観点を示した上で付箋に書き表し、視覚的に残すことでグループの話し合いに深まりをもたせたい。

考えを広げ、まとめるでは、教科書の「話し合いでよく使う質問の仕方」や「意見が対立したときには」に書かれている内容にも触れ、問題の対処方法として児童と共に考えを進めていきたい。さらに、話し合いの最中には、出た意見を関係付けたり分類したりして、まとめやすい状況を作っていくために思考ツールの「座標軸」を活用する。座標軸に全員の意見を配置していく中で、どの意見がよりよい学校づくりに適しているのかについて考えをまとめさせていきたい。また、意見をまとめていくためには、前時までに作成した「話し合い進行計画」に立ち返り、話し合っただけの観点に沿っているのかについてグループ全員で協議することで、より深い学びへと促していきたい。

3 単元の目標

【単元の目標】

- 情報と情報の関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことができる。[知識及び技能] (2) イ
- 目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討することができる。[思考力，判断力，表現力等] A (1) ア
- 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすることができる。[思考力，判断力，表現力等] A (1) オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに，見通しをもって課題解決のために自らの思いや考えを伝え合おうとする。[学びに向かう力，人間性等]

4 単元の評価規準及び指導計画

(1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係づけのしかた，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	①目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討することができる。(A (1) ア) ②互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすることができる。(A (1) オ)	①粘り強く，互いの意図や立場を明確にしながらか，学習の見通しをもって，身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。

(2) 指導と評価の計画 (全6時間)

時	ねらい・学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<p>○プロローグ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの話し合いの様子や、学校生活を振り返り課題意識をもつ。 ・単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。 		<p>思①これまでの話し合いの様子を想起し、立場を明確にした話し合いに向けて課題意識をもっている。(記述・発言・行動観察)</p>	<p>主①学習課題を捉え、学習計画を立てようとしている。(記述・発言・行動観察)</p>
2	<p>○新たにしてみたいことや解決したいことを考え書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで意見を集約し、発表する。 ・全体で話し合い、議題を決める。 	<p>知①情報と情報との関係づけのしかた、図等による語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(記述・発言・行動観察)</p>	<p>思①自分の考えを観点に沿って、書き出している。(記述・行動観察)</p>	
3	<p>○議題についての考えを書き出し、解決方法をまとめる。</p>	<p>知①課題解決に向けた自分の意見を付箋にまとめている。(記述・発言・行動観察)</p>		<p>主①・積極的に自分の意見を伝えたり、グループの意見を広げたり、まとめたろうとしている。(記述・発言・行動観察)</p>

4	○音声資料や動画資料から、話し合いのイメージをつかむ。 ・話し合いの工夫を整理し、観点として共有する。 ・グループで役割や進め方を決める。		思②話し合いのゴールを明確にもち、よりよい話し合いになるための手段を考えている。(記述、行動観察)	
5 (本時)	○互いの立場を明確にして話し合う。		思②話し合いを通して、議題について考えを広げ、結論を出すためにまとめている。(記述・発言・行動観察)	
6	○話し合いでまとめた解決策を共有する。 ・話し合いのしかたについての気づきや感想を共有する。 ・単元の学習を振り返る。		思②立場を明確にした話し合いについて、学習を振り返っている。(記述・発言・行動観察)	主①振り返って考えをまとめ、他の話し合いの場面で生かそうとしている。(記述・発言・行動観察)

5 本時の学習 (第5時)

- (1) 日時 令和5年10月2日(月) 3校時
- (2) 場所 甲府市立玉諸小学校 5年4組教室
- (3) 目標 互いの立場を明確にしながら、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。
- (4) 評価規準
- ・話し合いを通して、議題について考えを広げ、結論を出すためにまとめている。

【思②】

(5) 授業の展開

	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価
導入 つかむ 5分	<p>1. 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で決めた役割や進め方を確認する。 ・3つの観点を振り返り、イメージを待たせる。 ・自分の立場を再確認する。 <p>2. 学習課題を捉える。</p> <p>本時は、実際に話し合いを行い、解決策が見つかるように整理しながら話し合いを進めていくことを伝える。</p>	<p>「話し合い進行計画」 「話し合いマニュアル」</p> <p>★ICT活用 これまでに書き出した付箋 「現状と問題点」「解決方法」 「理由」を見直す。 「話し合い進行計画」を提示する。</p>	
展開 考える 10分	<p>3. 学習課題（めあて）の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて：互いの立場を明確にしながら、計画的に話し合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組みを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> → 立場を明確にすること。 → 話し合いの役割を決めたこと。 → 進行計画を立てたこと。 ・前時で決めた「話し合い進行計画」に沿って話し合い活動を行う。 <p>①『考えをひろげる話し合い』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊦ 一人ずつ意見を出し合う ㊩ たがいの考えについて質問したり、答えたりする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・司会を中心にして、できる限り様々な意見がでるようにさせる。 ・書き出した付箋をもとにして話し合いを進める。 ・質問によって相手の考えをより深く知る。 	<p>★動き出したくなる課題 自身にとって身近な話題を取り上げることで、自分が意識したいことや、頑張りたいことを明確にし、話し合いへの意欲をもたせる。</p> <p>※話し合い進行計画表</p> <p>役割確認をする。</p> <p>「解決策」と「理由」に分けて意見を挙げさせる。 ※「話し合いでよく使う質問のしかた」を参考にしながら、話し合いを進めさせる。 ☆Jamboardを使用</p>	思②（記述・発言・行動観察）

		→付箋を用いて意見を挙げさせることで、発言が苦手な児童にも話し合いに参加しやすい状況を作る。	
深める 20分	<p>②『考えをまとめる話し合い』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦たがいの考えの共通点や異なる点を確認する。 ㊧考えをまとめる条件を考え、その条件にそって話し合う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・司会を中心に、考えを整理しながら、互いの共通点と相違点をはっきりとさせる。 ・まとめる際の条件 →「<u>実現可能な取り組みである事</u>」 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>まとまった考えや話し合いの様子を</u>、次時クラスで共有するため、決まったことを整理しておくように伝える。 	思②(記述・発言・行動観察)
まとめる 10分	<p>6. 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の話し合い活動を振り返る。 <p>☆確かな発問</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>互いの立場を明確にした話し合いの良さはどんなところだろう</p> </div> <p>7. 学習感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの中で、<u>工夫したところ</u>、<u>うまくいったところ</u>、<u>気付いたこと等</u>がないか挙げさせる。 <p>※スプレッドシート</p>	思②(記述・発言・行動観察)

(6) 板書計画

十月二日(月)
よりよい学校生活のために

たがいの立場を明確にしなが
計画的に話し合おう

○話し合いのポイント

○立場について

『話し合い進行計画』

互いの立場を明確にした話し合いの良さはどんなところだろう

- ・全員の意見を聞くことができてよかった。
- ・質問をしたことで、相手の考えをより深く理解できた。
- ・みんなの意見が聞けてよかった。

1, 動き出したくなる課題について

自身にとって身近な話題を取り上げることで、自分が意識したいことや、頑張りたいことを明確にし、話し合いへの意欲をもたせる。

成果：

- ・子供たちの学校生活の中で身近な課題であったため、自分事として捉えながら取り組むことができていた。
- ・身近であり、自分事の課題設定であったため、一人一人がきちんと意見をもてていた。
- ・「つまり」「言いかえると…」などの「玉諸話し方名人」の話形を自然な形で使うことができており、それが上手な意見のまとめにつながっている。
- ・前時までの「自分の考え」「根拠」を元にした発言が見られた。ノートのまとめ方からも、単元を通して主体的に学習に取り組んでいることがよくわかる。
- ・「話し合いマニュアル」を用いることで、話形が身についている。
- ・ジャムボードやノートを活用することで、児童の意欲向上にもつながっている。

課題：

- ・子供たちにとって身近な課題設定であったが、身近すぎて質問が出なかったのではないか。賛成意見を出し、その根拠を話す場面があっても良かった。
- ・根拠をもって言葉で伝えられるような活動があるとなおよかった。
- ・課題が身近過ぎて、意見に対する質問があまり出てこなかったのではないか。

2, 確かな発問について

互いの立場を明確にした話し合いの良さはどんなところだろう

成果：

- ・座標軸を用いることで、相手の立場が明確になり、主張が分かりやすくなっていた。
 - ・「話し合い進行表」を用いて話し合い活動を行うことで、めあてに沿った話し合いができ、意見も活発に出すことができていた。
 - ・マニュアルを用いて「立場」「明確」等の言葉を確認しながら進めることでスムーズな話し合いにつながっていた。
- 思考力を高める元になっていた。

課題：

- ・確かな発問が、まとめの場面だけでなく、めあての確認後に主軸となる発問があっても

よかった。

- ・ICTを活用したことのよさを問う発問になっていた。

→めあてにもう一度立ち返った発問

をすればよかった。

- ・質問について子供たちの活動が止まってしまっていた。

→一度、中間指導として話し合いの方向性を確認することで、話し合いがより活発になったのではないか。

- ・成果ではなく話し合いの過程を重視した方が子供たちの活動が活発になる。

◎まとめ

・本単元では話し合い活動を主体的でより深い学びにするために、「自分の考えをもつ」、「考えを広げ、まとめる」の2点を重点的に指導してきた。主体的に話し合い活動に参加できるようにするため、議題を「最高学年に向けた学年の課題」という児童のより身近なものをテーマに設定した。

考えを広げ、まとめるでは、出た意見を関係付けたり分類したりして、まとめやすい状況を作っていくために思考ツールの「座標軸」を活用した。

話し合いの目標である合意形成に向け、司会の進行によって、立場を明確にして考えを広げみんなの納得の行く話し合いを行う際、ジャムボードを活用しての視覚化が有効的であった。

まとめる話し合いでは、どの班も意見が活発に出るようになり、いろいろな方策を練って、最終的な目標に向かっていくことができた。

本時のめあてや議題等、児童に提示する際に、「休み時間と授業の切り替えについて」とするよりも、「休み時間と授業の切り替えが上手にできるためにできることはなにかを考えよう」とより分かりやすい言葉で発問することで、具体的な色々な方法が出て、それに対する質問が出てくるのではないか。